

■南三陸町 志津川中学校 : ヒアリング記録 : 110506 10:10 ~ ■

首都大学東京 上野淳, 海洋写真家 杉森雄幸

応対してくださった方: 校長 菅原貞芳先生, 教頭 菅原先生

[順不同]

- ・当中学校は, 町の外れ, かなりの勾配の坂道を上った小高い丘の上に立地.
被災地の全貌が見渡せる.
- ・直後, 生徒308名, 住民250名, 教職員全員の約600名が避難.
- ・地震, 津波発生時, 生徒, 教職員全員が校内に. 引き続き, 避難生活に入る.
(欠席の生徒7名: その後安否確認に一週間を要するが全員無事)
- ・生徒全員, 教職員全員が校内に居たことが幸いであった。(翌日, 卒業式の予定)
生徒に一名の被害者も無し.
生徒は一時全員体育館に集められる.
- ・街を津波が襲う様子を見せないように配慮した. …→精神的ショック, トラウマを防ぐ意味. しかし, 教室に防寒具を取りに戻るなどして目撃してしまった生徒には, ショックとトラウマが残ったとのこと.(過呼吸状態)
- ・直後から「陸の孤島」状態 …→周辺のアプローチ路などは津波と瓦礫で途絶
- ・水, 食料, 暖房, 防寒具など全く不足. 役場からの救援も届かず.
- ・通信も勿論途絶. 一切の連絡ができず. …→外部からの情報が全く入らず.
紅白幕(卒業式用), カーテンなどをかき集めて体に巻き付けるなどで防寒.
- ・一人コップ一杯の水, など.
- ・(翌日) 中学校の更の上の方の入谷集落(崖道を辿る)から炊き出しのおにぎり300個
全員に行き渡るよう, 半分ずつに分け合って食す.
- ・3日目からトイレが詰まる. 大便の処理が大変.
グラウンドに溝を掘り, ブルーシートで覆って仮設のトイレ…→阪神淡路の時と全く同じ
(筆者感想)
- ・チリ地震津波などの経験, 防災教育は常時行っていた. 防災甲子園(大賞受賞)
- ・炊き出し: 3日目から.
瓦礫撤去で中心部への道路が何とか開通: 5日目
毛布(1人1枚): 5日目
ストーブ: 6日目
通信(a u): 10日目. ついでドコモ, ソフトバンクと復旧
衛星電話10日から.
- ・電気, 水道は現在も途絶. 一部, 自家発電.(発電機が届いたのは3月下旬)
- ・教職員は自宅・家族の安否確認もできず全員学校にとどまる.
5日目から交代で順次安否確認に自宅に戻る

家を流された方 7名.

- ・この頃から、帰宅できる生徒は徐々に家族に戻す(40~50名)
- ・当初、住民は各教室毎に分散(9教室). 生徒も学年, 性別毎に教室に生活場所を定める.
(この時期の生活日課のデータ入手)
- ・教室の班毎にリーダーを決めてもらう(校長の指導): 5日目
班長会議でその都度, 諸方針を決定. 自治組織
教員(校長・教頭)によるリーダーシップから徐々に自治組織に権限を委譲.
- ・避難者名簿の作成 …→ 住民台帳の代わりになる(行政組織が壊滅しているため)
- ・その後, 教室避難所を体育館に移す. コミュニティー単位にまとまりを作るように変更.
地区ごとのまとまりを作るよう説得集会
高齢者, 町内の茶飲み友達, 子供同士の遊び仲間関係, など
老人を一人にさせない, 子供の教室間の移動がなくなる, 行政側の立場から近隣住民は
まとまったほうが把握しやすい
- ・現在は体育館に避難者 27名
- ・現在は町内5箇所の避難所を統合するため準備中.
小学校, 町立アリーナなどから100名が近々, 志津川中学校体育館に移転予定.
ベイサイドアリーナから100名移動が決定, さらに200名まで増える可能性がある。
- ・衛生管理. O157対策などで, 養護教諭が活躍.
- ・喫煙場所の特定, など避難者の生活モラルは高かった.(教師の指導力)
- ・現在, グランドに仮設住宅102戸, 建設中
- ・これからは, 学校機能と, 仮設住宅, 体育館の避難者(約100名余)の同居が続く.
- ・来週, 始業.

[上野感想]

教師の指導力(冷静沈着), 避難民の自治組織, トイレの応急措置, 生活確保期に至るまでのプロセス, など阪神淡路と共通点が極めて多いことに気付く.

[その後, 5/14に校長先生からお手紙を頂く]

- ・5/12に県内で一番遅い入学式を挙行.
- ・当初新入生は104名の予定であったが, 24名減(県内外に避難)で80名の新入生を迎える.
- ・震災前の全生徒数は323名を予定していたが, 5/14現在で225名.
- ・体育館には現在110名を越す避難者.
- ・武道館は支援物資倉庫
- ・グランドには102戸の仮設住宅.